

学校におけるデータ標準化や利活用に求める視点での データ標準化の考え方のヒント

奈良県教育委員会
奈良県立教育研究所 教育情報化推進部主幹 小崎誠二

奈良県 先生の働き方調査

目的と実施概要

I. 目的

- 教員の働き方の課題把握

II.調査方法

- アンケート画面URL送信によるWebアンケート

III.対象者

- 回答者数 3,845名 ※属性毎の回答者数は次頁に記載

IV.集計対象データ

- 2019年12月10日 ～ 2020年1月10日

属性別回答数一覧

	全回 答者	部活顧問		役職			担当の有無 (学年主任、〇〇部長など)		担任		
		顧問 あり	なし	管理職	常勤の 教員	非常勤の 教員	担当 している	して いない	主担任	副担任	して いない
小学校	1,590	186	1,404	239	1,318	33	944	646	895	34	661
中学校	958	784	174	132	805	21	475	483	388	226	344
高等学校 (全日制)	838	770	68	50	779	9	275	563	297	309	232
高等学校 (定時制・通信制)	73	53	20	6	67	0	28	45	39	12	22
特別支援学校	344	62	282	14	326	4	88	256	117	143	84
その他	42	1	41	4	20	18	13	29	18	5	19
合計	3,845	1,856	1,989	445	3,315	85	1,823	2,022	1,754	729	1,362

結果の概要（全体集計）

時間の 使い方	勤務状況	学校滞在時間11時間22分 年間休暇日数時間88.3日
	自分の時間の使い方	自己学習の時間が足りない
	減らしたい業務	①事務・報告書作成 ②会議・打合せ ③保護者対応
	力を入れたい業務	①授業や学活の準備 ②学習指導 ③生活・生徒指導
スキル習得・ 情報共有	困っていること	研修・勉強の機会がとれない
	情報共有の要望	事務的な作業に関する手続き等 家庭の状況
ICT	おもな業務機器	①パソコン（専用） ②スマートフォン（私物）
	校務システムの導入状況	導入している 54%
	校務システムへの期待	異動時の負担が軽減される
	ICT活用への不安	情報漏洩
教職への 思い/ 改革意識	教職への思い	やりがいがある、誇りをもっている、 若い人に勧めたいといえない
	改革意識	働き方を変えたい 81%
	改善が難しい原因	業務量
	意見・要望	適切な人員配置、業務のスリム化が必要

負担感がある・減らしたい活動

全回答者

負担感がある

1位

事務・報告書作成

2位

会議・打合せ

3位

保護者対応

減らしたい

1位

事務・報告書作成

2位

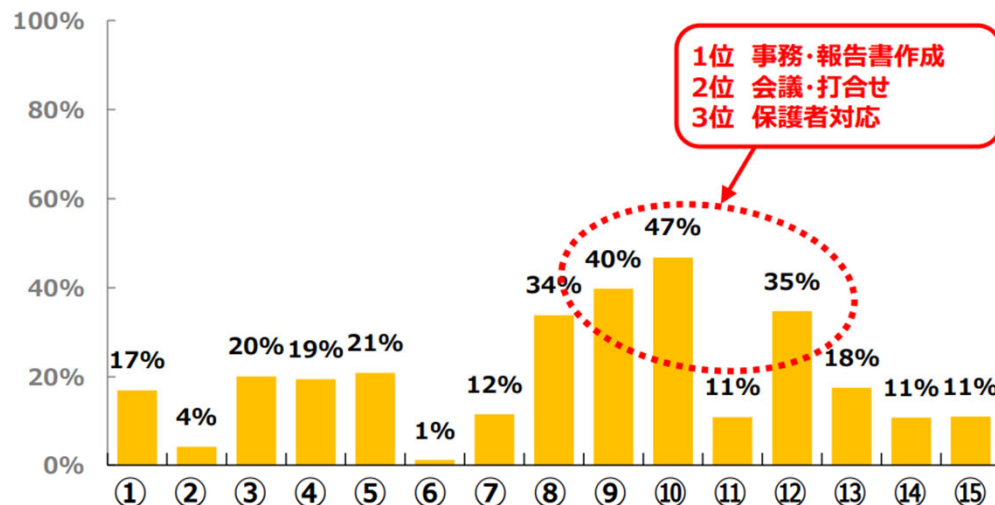
会議・打合せ

3位

保護者対応

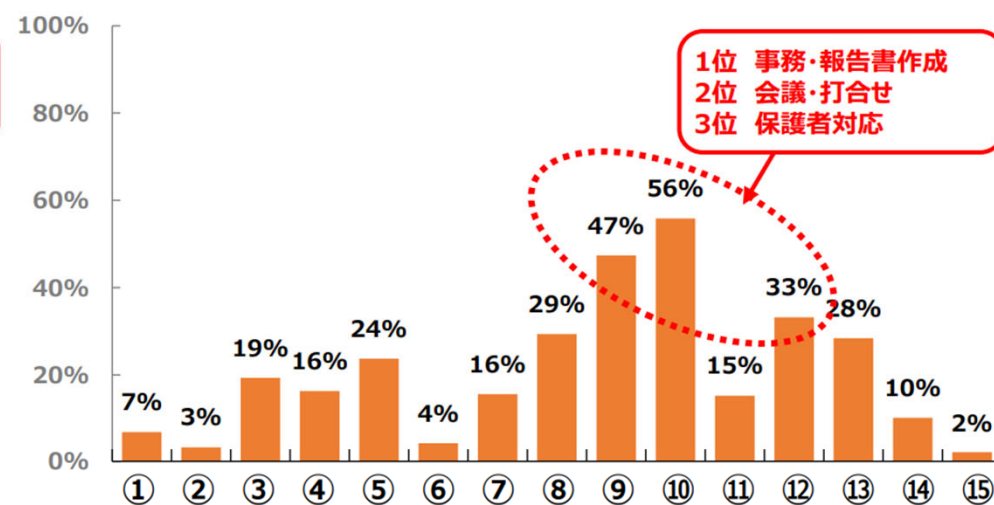
負担感がある業務

Q. 授業以外で、負担を感じている活動を上位3つまでお答えください。



時間を減らしたい業務

Q. 負担や時間を減らしたいと思う活動をすべてお選びください。（いくつでも）



- ①授業や学級活動の準備（教材研究等） ②学習に関する指導 ③評価や成績に関すること（採点等を含む） ④生活指導・生徒指導
 ⑤部活動・クラブ活動の指導 ⑥児童会・生徒会指導 ⑦学年・学級事務（連絡帳の確認、学級通信等の作成等）
 ⑧学校経営（校務分掌に関すること） ⑨会議・打合せ ⑩事務・報告書作成 ⑪校内研修 ⑫保護者対応 ⑬PTA・地域・行政・関係団体対応
 ⑭校外出張 ⑮その他

回答抜粋

【事務・雑用】

- ・教員の勤務時間の管理
- ・学級費の出納
- ・書類整理
- ・このようなアンケート
- ・定期テスト問題作成
- ・学校統合の会議や資料作成
- ・推薦入試、奨学金等の業務
- ・文書の作成
- ・担当外の学年事務
- ・雑用
- ・芝の管理
- ・電話対応
- ・校内環境整備
- ・授業後の片付け
- ・草刈り・剪定・校内清掃
- ・校地内の剪定、草刈りなど
- ・学校施設設備の点検修理
- ・P C環境整備
- ・戸締りなど

【行事・校外出張】

- ・部活動競技団体の仕事
- ・特別行事の企画等
- ・地教委との往復
- ・休日の出張、地域行事
- ・校外での各種の委員会・理事等の業務
- ・部活の県の役員の仕事
- ・行事や発表の内容の企画
- ・学年行事
- ・出張、休み教員の補充
- ・奈良市主催の休日の校務
- ・勤務時間外PTA会議

【教員間のこと】

- ・若手教員の指導
- ・職員の仕事の終わりを待つこと
- ・他の教員の業務のフォロー
- ・ICT関連の生徒教員へのサポート
- ・動かない教諭のかわりにする仕事
- ・教職員対応
- ・職員管理
- ・教員のトラブル
- ・管理職のいじめ、パワハラ
- ・同僚の過失の補填
- ・管理職からのパワハラ

【生徒対応】

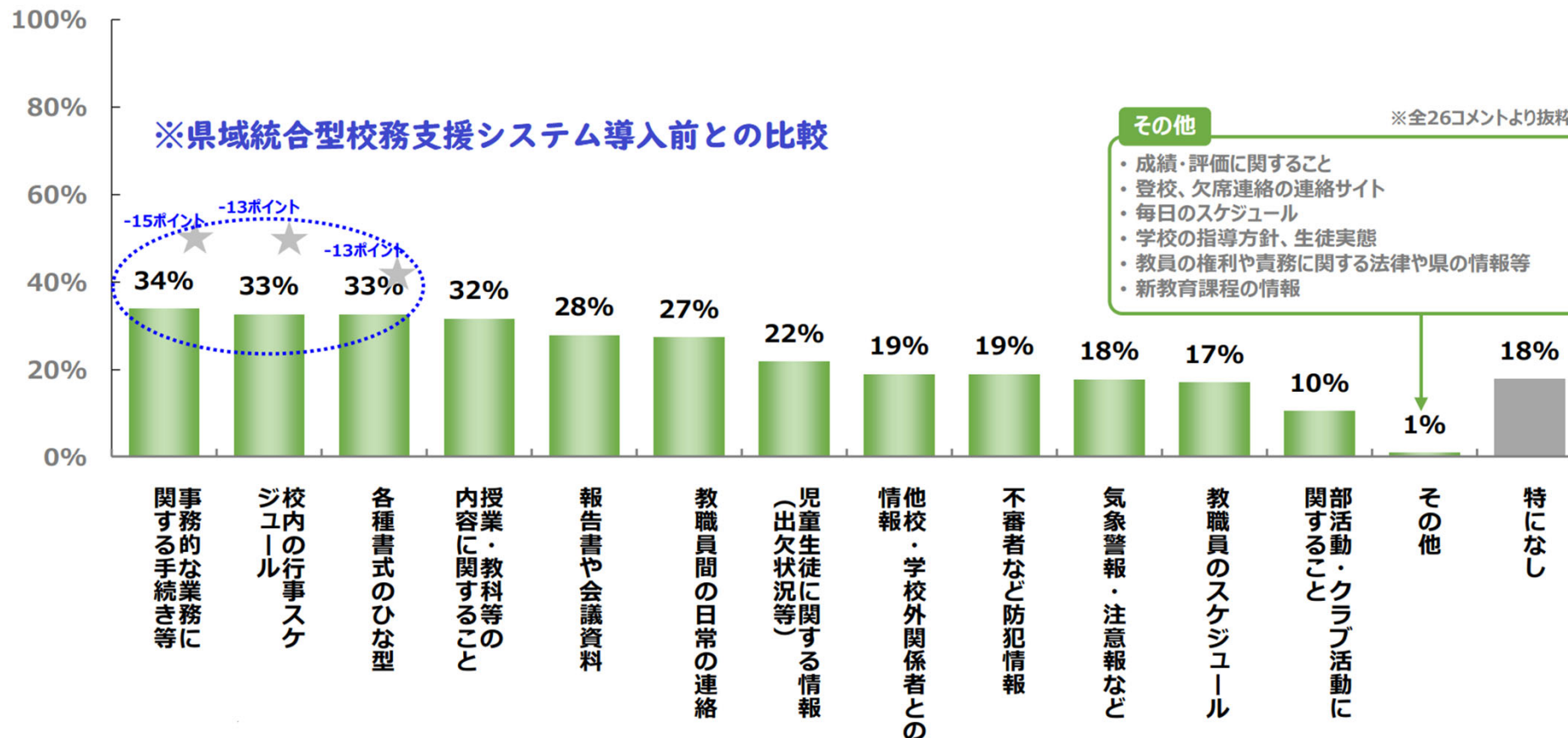
- ・進路関係
- ・朝の通学指導
- ・清掃指導
- ・検定補習
- ・児童の登校支援
- ・カウンセラー対応
- ・宿泊学習
- ・授業前の準備
- ・奇人指導（進路）

【その他】

- ・臨時講師を探す
- ・現場を理解していない教委の企画する研修
- ・学校統合に関わる保護者対応
- ・来客対応
- ・人間関係の構築
- ・人事

- 事務的な作業に関する手続き等 34%
- 校内の行事スケジュール 33%
- 各種書式のひな形 33%

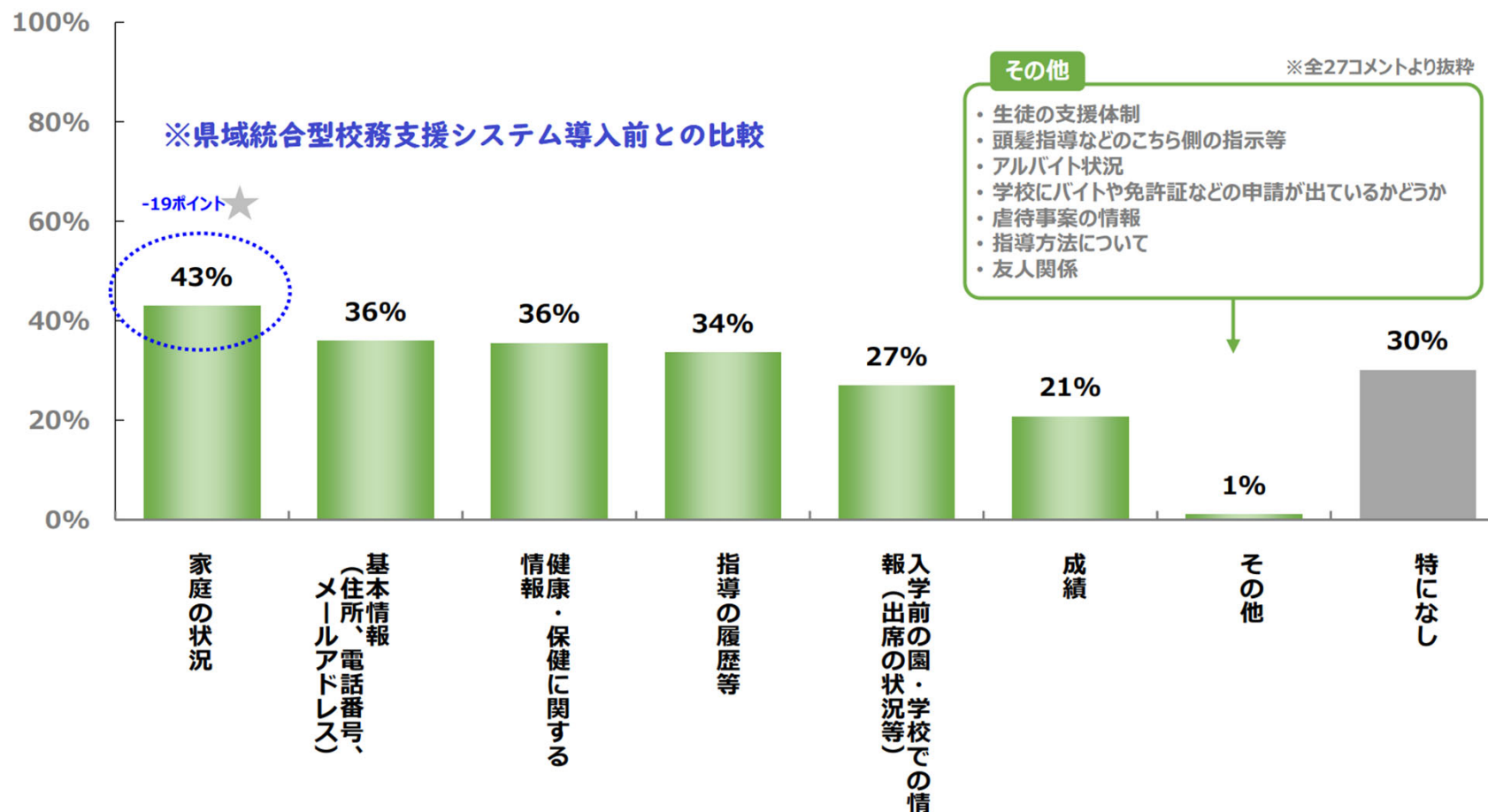
Q. いつでもどこでも確認できるなど、情報共有を強化してほしいものがあれば、すべてお選びください。（いくつでも）



➤ 家庭の状況

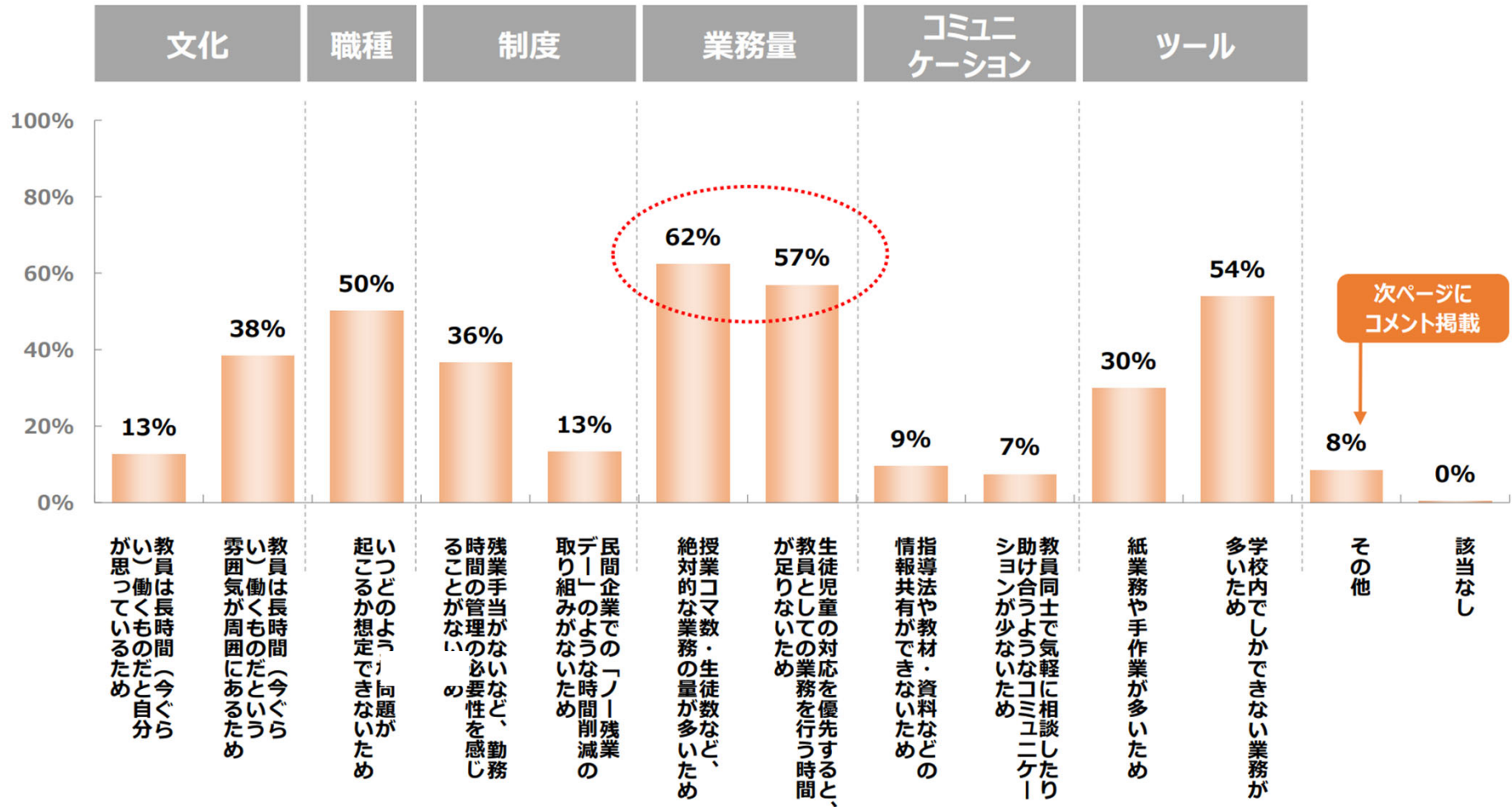
43%

Q. いつでもどこでも確認できるなど、情報共有を強化してほしいものがあれば、すべてお選びください。（いくつでも）



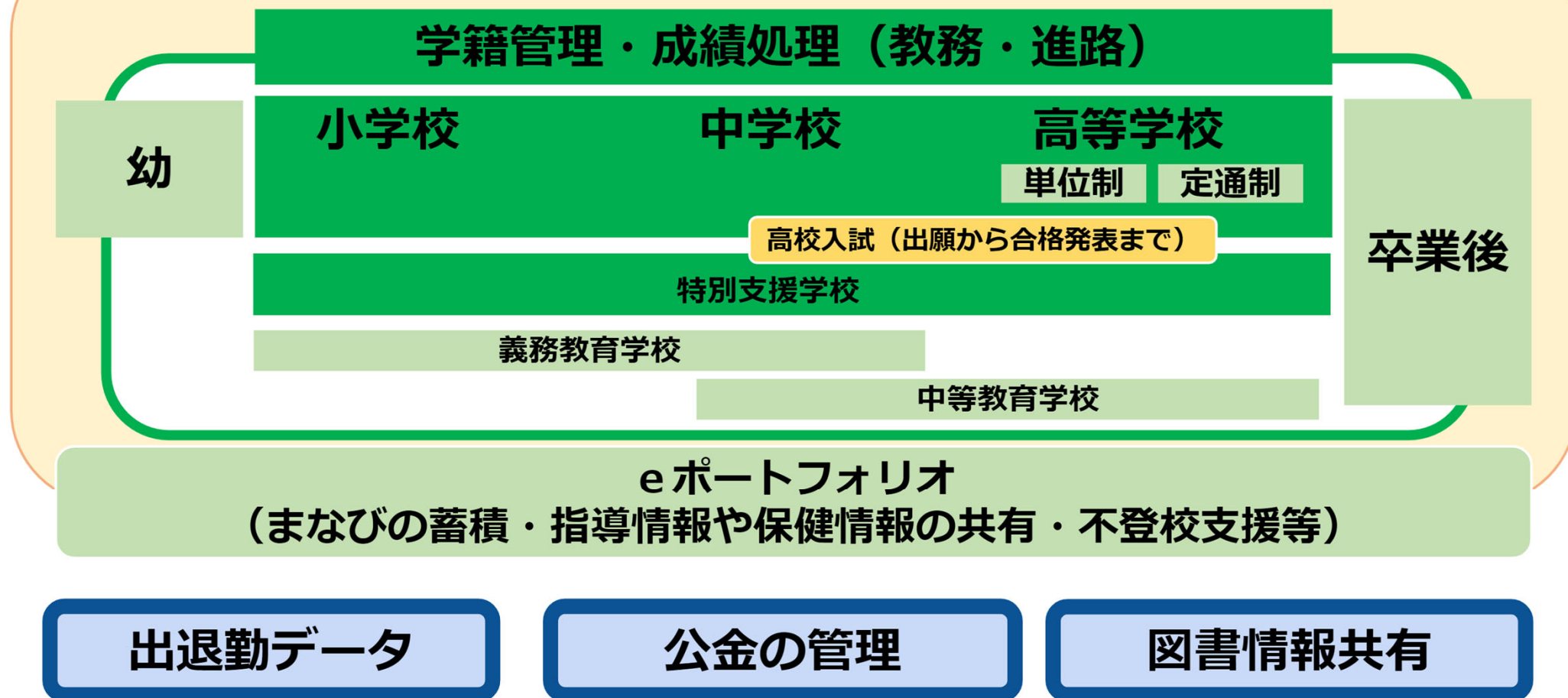
- 授業コマ数・生徒数など、絶対的な業務の量が多いため 62%
- 生徒児童を優先すると、教員としての業務の時間が足りない 57%

Q.「教員の長時間労働」について、改善が難しい一般的な理由として考えられるものをすべてお選びください。（いくつでも）



県域統合型校務支援システムの構想

県域で共通のグループウェア・CMSによる情報の連携・共有

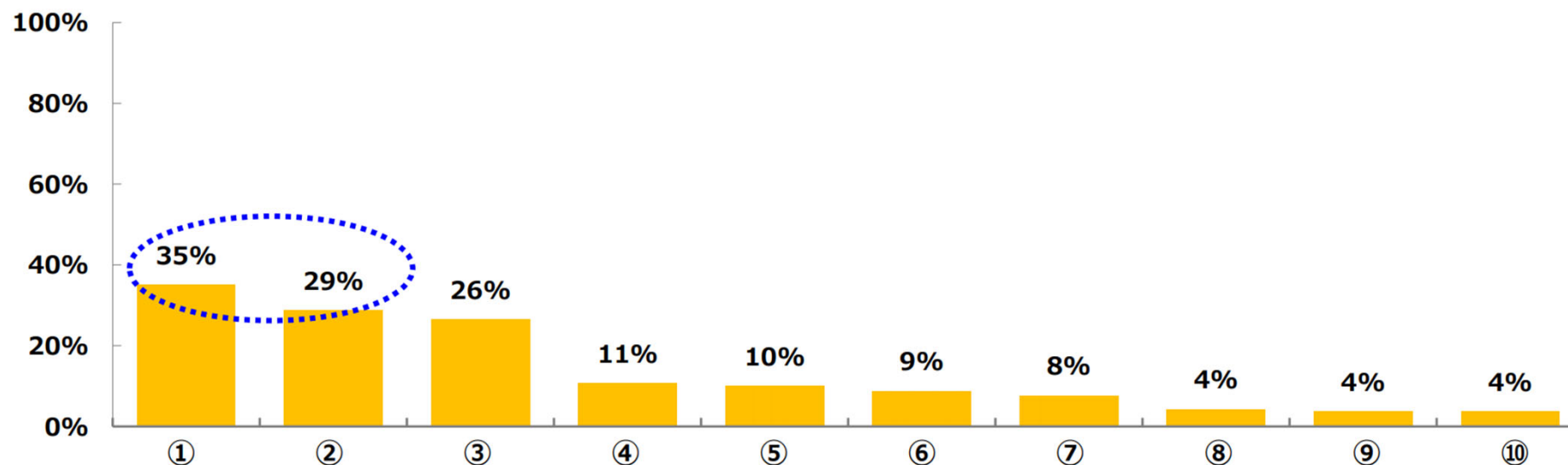


統合型校務支援システムの利用効果

全回答者

- 出席や学籍に関する情報共有ができ、児童生徒の指導に活かせるようになった **35%**
- グループウェア等で情報を共有でき業務負担が軽減した **29%**

Q.統合型校務支援システムを導入してよかったこと、便利になったことは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）



- ①出席や学籍に関する情報共有ができ、児童生徒の指導に活かせるようになった ②グループウェア等で情報を共有でき業務負担が軽減した
③校務系ネットワークの運用により学校のセキュリティが向上した ④帳票等が平準化されたので教務に関する準備段階の業務が改善された
⑤学校外との連絡業務が改善された ⑥学力をすぐに把握できるので、成績変化に応じた指導が可能になった
⑦各教科の評価について、教員間で理解を深めることができるようになった ⑧業務の平準化により、教育の質の向上ができた
⑨担任と担任以外の職員のコミュニケーションが以前より深まった ⑩教材研究など本来の業務にウエイトを置くことができるようになった

統合型校務支援システムの利用効果

全回答者

Q.あなたが実感している統合型校務支援システムのメリットや、システムの導入がきっかけで校内の業務改善が進んだ点について教えてください。

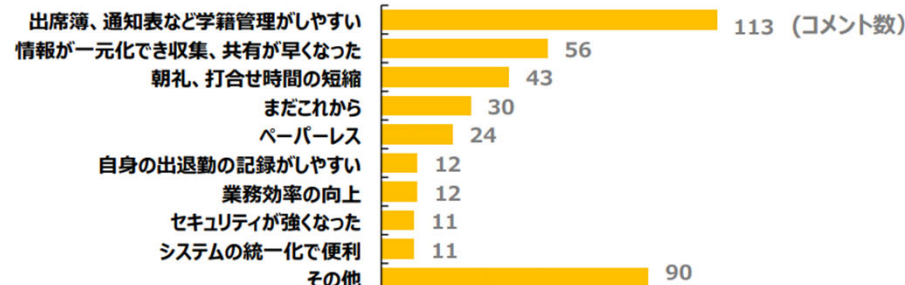
※全147コメントより抜粋

小学校

- ・成績が非常に簡単で間違いがなくなった！
- ・教職員間の情報共有・伝達が容易。
- ・会議の日程調整をするのに、スケジュールを把握しやすかった。
- ・些細なことでも共有ボードをつかって連絡できる。
- ・校内で保存されたデータについては、職員全員が見れることから、情報の共有がしやすい。
- ・職員朝礼や終礼の時間が大幅に短縮されたこと。
- ・朝の打ち合わせの時間が短くなって、教室に行くのが早くなった。
- ・システムが導入されたばかりで、メリットはまだ実感できていない。
- ・使い方に慣れると、業務の効率化になるかも。
- ・移行期にあり、今は大変だが、完全に導入されたら便利かと思う。
- ・会議で配布する紙媒体がいらなくなった。
- ・紙媒体での保存の必要がなくなったため、書類の整理が楽になった。すぐに他の教員に情報が共有できる。市内の教員とも連絡がとれる。
- ・紙媒体の仕事が、PCでできるようになったこと。
- ・紙に印刷しなくても情報を共有できるところ。
- ・学校内でできることと、持ち帰ってする仕事と分けて考えている。
- ・処理が早くなった。

中学校

- ・出欠管理（日々の記録、通知票や要録とのリンクなど）の負担が軽減した。
- ・転校してきた生徒に対する情報の収集と対応方法について考える時。
- ・出席簿に記入せず、入力で管理できるようになったので、学期末に欠席や遅刻数を数える手間が減りました。
- ・これまでは電話のみだった学外とのコミュニケーションがさらに円滑になった
- ・自分自身の勤務状況の管理が楽になった。
- ・書く手間が減った。直感的にわかりやすい。



高校

- ・成績関係の書式が統一されたので、管理しやすく、勤務校が変わっても戸惑わない。くらいです。
- ・データとして残せるので過去の出欠確認がしやすい。
- ・成績処理が待たずに同時にできる。
- ・今まで分散していた情報がひとまとめになり、管理しやすい。
- ・連絡事項を共有できるので、朝の職員朝礼の短縮ができ、余裕ができた。
- ・指導要録や調査書がデジタル化された。
- ・事務作業の高効率化。
- ・重複作業が削減されたように思う。
- ・セキュリティ面では強固になったと思う。
- ・特別教室などの予約状況が見やすく、予約もしやすくなった。

特別支援学校

- ・教員間でデータの共有がしやすくなった。
- ・校内でのセキュリティの安心感を感じた。
- ・これがきっかけでPCが職員全員に付与された。

➤ 同じシステムを利用することで異動時の負担が軽減される

39%

Q.現在、奈良県では、奈良県内のすべての公立学校で統一して利用する統合型校務支援システムの導入を推進しています。学校を超えて帳票などを標準化して活用していくことについてどのように感じますか。あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）

どこの学校でも同じシステムを利用するので教員の異動による負担が軽減される

名簿・出席簿の管理が楽になる

指導要録の作成が標準化されて業務が楽になる

通知表の作成が標準化されて楽になる

学期末・学年末の成績処理が標準化されて便利になる

校務支援システムを利用するイメージがわからない

日々の指導に伴う評価の記録が標準化されて便利になる

校務支援システムを知らない

保健に関する情報の管理・共有ができるので便利になる

業務が標準化されて慣れると児童生徒のための時間が増えてよい

品質、スピード、平準化により業務の質が向上する

教育委員会管理になるためセキュリティが向上して安心安全に業務が行える

システム導入によって業務改善を行えるので「本来業務」のために時間を割ける

通知表等の記載内容が充実し、ミスが減る

教員間の連絡業務が標準化されてコミュニケーションの質が向上する

児童生徒の出欠等の情報をきめ細かに知ることができて生活指導の質が向上する

校務支援システムを利用することには負担感しかない

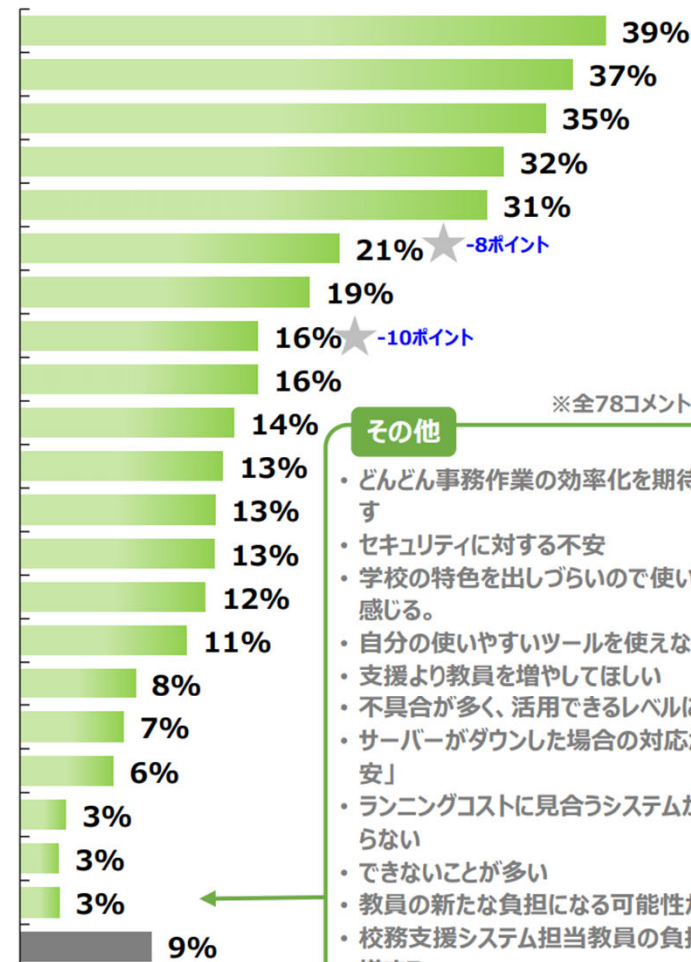
児童生徒の成績等の分析が多様化して指導の質が向上する

業務を標準化することよりも、学校のオリジナリティのある資料等を作成することのほうが意義がある

校務支援システム等のICTを教育で利用することには意義を感じない

その他

特になし



※全78コメントより抜粋

その他

- ・ どんどん事務作業の効率化を期待します
- ・ セキュリティに対する不安
- ・ 学校の特色を出しづらいので使いにくく感じる。
- ・ 自分の使いやすいツールを使えなくなる
- ・ 支援より教員を増やしてほしい
- ・ 不具合が多く、活用できるレベルにない
- ・ サーバーがダウンした場合の対応が不安
- ・ ランニングコストに見合うシステムかわからない
- ・ できないことが多い
- ・ 教員の新たな負担になる可能性がある
- ・ 校務支援システム担当教員の負担は激増する
- ・ 管理運用が個人に集中する

n=3,845

…否定的な選択肢

県域同一ドメイン(いいネットなら)による公用アカウント運用開始

全ての教職員・児童生徒に付与 @e-net.nara.jp



1. 全県立学校
2. 全市町村立学校・園
3. 県内全国立大学法人&附属
4. 県内全私立学校法人
5. 教育関連団体

学校教育現場におけるデータの標準化と利活用の視点

データの分類

- 学校に持ち込まれるデータ
- 学校でつくられる(生じる)データ

データの種類

- 卒業後に不要となるデータ
- 卒業後も保持するデータ

データの取扱い

- 校内だけで利用するデータ
- 校外でも利用されるデータ

- 学校は在籍中だけデータを保持する
- データは生徒のアカウントに紐づける
- 複数のシステムと結びつけられるよう

学校は「情報銀行」の役割であるべき？